

## The Open Group Glasgow Conference ハイライト 第一日目

- \* 開催日時: 2008年4月21日(月)～4月23日(水)
- \* 開催場所: Radisson SAS, Glasgow
  
- \* OPEN GROUP Conference in Glasgow  
<http://www.opengroup.org/glasgow2008/>

The Open Group は、第 18 回アーキテクチャ・プラクティショナ・コンファレンスを 4 月 21 日に Glasgow に於いてキック・オフした。業界のリーダー達が the Radisson SAS に世界のあちこちから集まり、SOA や TOGAF、EA の専門家達が意見交換を行った。以下は、第 1 日目のハイライトである。

The Open Group の President and CEO の Allen Brown 氏は、第 1 日目の“TOGAF と Enterprise Architecture”プレナリ・セッションで、キック・オフのオープニング・スピーチを行った。氏は、大西洋の両サイドから来られた参加者に歓迎の意を表した。

続いて、Dr. Tom Urquhart 氏、Global Architecture Leader, PricewaterhouseCoopers LLP が” Architecture as an Enabler for Sustainability”というテーマで基調講演を行った。氏は、アーキテクチャが如何にして大事なビジネスを持続させることができるのかについて議論を展開された。氏は、多くのビジネス・リーダー達がビジネスの持続性を何処からスタートさせるのかを単に知らないと述べた。氏は、このビジネスの持続性を維持するために、ビジネスの要求を IT のリクワイメントへ反映する全体像に注目するアーキテクチャの役割について述べた。各々のビジネス・プロセスやサービス、IT 機能について、ビジネスの持続性を考慮する必要があると述べた。氏は、アーキテクチャのプリンシプルにビジネスの持続性を採用することを進言し、それにより究極的に IT がビジネス・プロセスの持続性を可能にする。持続性は、え官公庁や企業が今日直面している重要なマネジメント課題の 1 つであり、そしてアーキテクトはこの事にうまく対処することが大事である。

続いて、Sarah Porter 氏、Head of Innovation, Joint Information Systems Committee (JISC) が” Strategic Steps in Enterprise Architecture-Transforming ICT Education”というテーマで基調講演を行った。” JISC”の目標は、教育と研究分野の ICT の革新的利用に指導力を発揮することである。高い教育分野での革新は大変重要であるが、それはまだ進化の局面にあり、JISC はもっと柔軟な制御しやすいシステムやポリシー、

ビジネス・プロセスを創り出すよう手助けしている。氏は、エンタープライズ・アーキテクチャは高いレベルの教育を革新していく上で驚く程有効であり、あらゆる側面をサポートできると、述べた。JISC は、英国の大学で早期に適用した3つの先行プロジェクトを現在持っている。それらすべてのプロジェクトは、エンタープライズ・アーキテクチャを実行し、TOGAF トレーニングを行っている。目標は、エンタープライズ・アーキテクトのコミュニティを作ることであり、そして英国の高いレベルの彼らは The Open Group のメンバーシップベースから学ぶことができる。

Dave van Gelder, Global Architect, Capgemini Nederland BV 氏は、”Business Analysis and Enterprise Architecture”について基調講演を行った。進展しつつあるテクノロジーは、2つの方法で自由をもたらす。1つは、新しい価値と改革、2つ目は、現在の問題から我々を自由にする、と氏は述べ、このことは組織に対して活動中のプロセスをもたらすことができ、欲しい時にデータを得ることができると主張した。

ビジネス・アナリストは、上記2つの柔軟性が単純でなく、それ自身が IT だけを必要としていないことが現実であることから、全体像を入れる。良く洗練されたエンタープライズ・アーキテクチャは、IT と同様に非 IT にも範囲を拡大し、インプリメンテーションのための柱として活用することができる。従って、ビジネス分析は、大変重要であるという。氏は、ビジネス・アナリストの仕事や彼らの動機づけにも触れ、The Open Group がこの分野の更なる開発や標準に指導力を発揮して行くよう話された。

本日最後の基調講演者として、Daniel Berg 氏, Distinguished Engineer, CTO Global Sales & Services, and Vice President EMEA Systems, Sun Microsystems は、”Architecting the Sun”というテーマで話しをされた。氏は、サン The Open Group における活動概要を話され、過去2カ月で 130 名の TOGAF 認証者が誕生したと報告された。氏は、サンがエンタープライズ・アーキテクチャを如何にして実施しているか、どんな変化をもたらしつつあるか、どのように変化したアーキテクチャが如何に IT を変化させたかを話された。まず最初に大事なことで、“競争経済”は、新しいサービスを迅速に提供する“ダイナミックなアーキテクチャ”を求め、反対に古いものは静的なアーキテクチャである。さらに氏は、サンは、データ・センターの機能やインフラ、システム・オペレーションのモデルについて検討していると述べた。

午後のプロフェッショナル育成のセッションのは、Paul Homan 氏, IBM UK のテーマ”Leading Enterprise Architecture”でキック・オフされた。氏は、チーフ・アーキテクトとして、エンタープライズ・アーキテクチャの指導経験談を話された。氏は、EA の状況に無関係に、多くの企業はアーキテクチャ以上に指導力を必要とし、エンタープライズ・アーキテクチャを実施していく上での指導力やマネジメントの側面に焦点を当て、影響力や

意思疎通のような柔軟なスキルについて話をされた。

TOGAF のセッションでは、Proteus Duxbury 氏, Principal Consultant, PA Consulting Group, US が”What can TOGAF Learn from the Success of the Medicaid Information Technology Architecture (MITA) Framework?”で講演された。

氏は、Medicaid (米国の医療保障制度) のシステム開発と健康管理の改善を支援する米国の MITA フレームワークが TOGAF との整合性をどのように達成したか話された。氏は、TOGAF フレームワークが MITA コンポーネントを強化することができた点、特に、ビジネス・アーキテクチャのコンポーネントについて話をされた。

ビジネス・ドリブン SOA のパネルディスカッションでは、Robert Laird 氏, IBM, UK と Andreas Renk 氏, Senior IT Architect, IBM, Germany と Mario Biedermann GbR, Germany がパネリストとして参加され、Dr. Chris Harding 氏, Forum Director for SOA and Semantic Interoperability at The Open Group がモデレータを務めた。パネリスト達は、IT のビジネス価値の話題が高まることに触れ、ビジネスと IT との整合性、ビジネスの損益に直結する IT プロジェクトの危険性について言及された。

その後の SOA セッションでは、Martin Hromek 氏, Principal Architect, DHL IT Services (Europe), Czech Republic は、“SOA’s Role in Enterprise Architecture and Architecture Framework”テーマで講演され、SOA が如何に IT スループットやビジネスの迅速性を向上させる大きな可能性をもっているか、3つの局面アーキテクチャ・フレームワークの中で如何にサービスが中心的存在かを強調され、組織にはそのような共有されるサービスを構築するためのインセンティブが必要である。アーキテクチャ・フレームワークの中でサービスを中心的に位置づけた優位性を取得する効果的な方法は、エンタープライズ・アーキテクチャの中心に SOA を効果的に実行することである。

第1日目の TOGAF セッションの最後には、Marlies van Steenbergen 女史, Sogeti, Netherlands が ”Successful Enterprise Architecture: Getting Stakeholder Involvement”というテーマで講演した。女史は、組織内での開発の一体感を維持するためにステークホルダの参画と、さらに様々なアーキテクチャを使用することとステークホルダ (アーキテクト、管理者、サプライヤ、学生) のタイプ毎の関心事を明確にすることを強調した。ステークホルダの参画方法は、プレゼンテーションやレビュー、インタビュー、ワークショップである。

以上